

【様式】

令和 2年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

学校名 (桑名工業高等学校)

(1) 目指す学校像	○ 生徒・教職員が一体となり、生き活きとした活気あふれる学校
(2)	育みたい児童生徒像
	ありたい教職員像

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 進路実現、充実した学校生活</p> <p><保護者> 生徒の進路実現、基本的な生活習慣の確立、人間性豊かな人格の形成</p> <p><地域、地元企業等> 地域で活躍できる社会性を身につけた、人間性豊かな職業人の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者、中学校関係者> 情報共有、連携、協働</p> <p><地域、地元企業等> 地域で活躍できる人材育成</p>	<p><保護者、中学校関係者> 本校教育活動への理解、協力、情報共有</p> <p><地域、地元企業等> 本校教育活動への理解、協力、情報共有、指導</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>社会がこれまでの安定期から変化の時代が変わった。このことにより人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自ら学ぶ努力」のできる人材を育成する。 ○ IT社会の中「正しい情報を見極める力」と行動力をもった生徒の育成。 ○ 少子高齢化の中で若い世代にもものづくりへの興味を持たせる取組み。 ○ 学校で学習している内容をもっとアピールすべき。成果発表会の公開 ○ アジアの中でもものづくりを継承できる人材が求められています。 ○ 海外インターンシップや他校等の交流など様々な経験を生徒に積ませてほしい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>桑名工業三原則、コース選択のためのガイダンスや個人面談の実施、キャリア教育、進路シミュレーションなどきめ細かい指導は、問題行動の減少や進路実現に繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 成果発表会での地元中学へのPRの発信 ○ コース選択において、興味関心や将来の進路より友人関係を優先させる生徒がいる。 ○ キャリア探究コースの発展に努める。 ○ 保護者と連携した遅刻指導の取組を充実させ、基本的な生活習慣の確立を目指す。 ○ より高度な資格へ挑戦できる指導体制の充実とクラブ活動の活性化に取り組む。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と歩むものづくりに基づき、地域の思いに応じた情報発信を積極的に行い、地域から愛され信頼される学校づくりを目指す。 ○ 工作機械が進化し、機械図面などこれまでの二次元から三次元への対応が必要。 ○ 実習・インターンシップ・学校行事など、生徒が主体的に計画、実行できるように生徒自身が行動できるよう指導する。 ○ 本校の教育活動の先進的取組として、Wi-Fiを整備し、オンライン学習に対応できるよう、職員研修を充実させ、タブレット学習を充実させる必要がある。 ○ 授業でのPCの活用を多く取り入れ、総勤務時間の縮減に取り組む。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・基本を大切に魅力ある授業づくりと、桑名工業三原則の堅持に努める。 2. キャリア教育を推進しデュアルシステムを通じ、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、工業への見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。 3. ものづくりを通じ地域社会での発展を担う職業人として、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できるよう学習活動の充実を図る。 4. 基礎学力の定着と向上に努め、工業高校での指導者育成に努める 5. グローバル人材育成のため、海外インターンシップに積極的に取り組む。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「情報共有と連携」をキーワードに、チーム桑名工業で取り組む組織づくりを進める。 2. 生徒と真摯に向き合い、コンプライアンスの遵守に努め、指導に専念できる明るい環境づくりに取り組みます。 3. Wi-Fiの整備を早急に取組み、Google for education のクラウド学習の充実を図り、総勤務時間の縮減に努める。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報共有と連携	<p>(1) 教職員間の情報共有を進め、チーム桑名工業で取り組めるように分掌会と学年との連携を密に取り、スマートな運営に努める。</p> <p>【活動指標】 ルールの見直しや改善、コンプライアンスミーティング等開催します。</p> <p>【成果指標】 各分掌や学年で学期ごとに1回以上。 (2) 地域や保護者への情報発信への取組を進めます。</p> <p>【活動指標】 桑工安心メールの登録数を増加します。 ホームページの内容を充実させます。</p> <p>【成果指標】 保護者の登録90%、生徒の登録80%。</p>	<p>(1) 職員会議での事項書などにミニコンプライアンス紹介とミニ研修を行いコンプライアンス意識の向上につなげた。</p> <p>(2) 今年度は新型コロナウイルス感染拡大の為桑名工業高等学校成果発表会などWebでの公開となった。また、文化祭・体育祭についても外部の招待もなく本校だけで行い、学校行事についてはすべて実施することができた。(ホームページにて公開中)</p>	◎
総勤務時間の縮減	<p>(1) 時間外労働時間の縮減を目指し、生徒指導に係る臨時的な特別な場合を除き、時間外労働時間を年360時間(月平均30時間)月45時間を超えないことに努めます。</p> <p>【活動指標】 職員一人当たり月4時間縮減</p> <p>【成果指標】 ・一人当たりの月平均時間外労働…28時間以内 ・年間360時間を超える時間外労働者数…0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数…0人 (2) 休暇取得促進として、総勤務時間縮減を進め、休暇の取りやすい環境づくりと定時退校日を定めます。</p> <p>【活動指標】 ・定時退行日を年間20程度定める。 ・学校閉校日については2日以上定める。</p> <p>【成果指標】 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合…95%以上 ・一人当たりの休暇取得日数…17日以上</p> <p>(3) 部活動について、一週間(土日を含む)のうち生徒、顧問ともに休養日の設定を設けます。</p> <p>【活動指標】 考查中等は多く取り入れ、週1日以上設定する。</p> <p>【成果指標】 予定通り休養日を実施できた部活動の割合…100%</p> <p>(4) 会議スマートルールを参考に会議時間の短縮を図ります。</p> <p>【活動指標】 会議の時間は1時間以内</p> <p>【成果指標】 放課後に開催して60分以内に終了した委員会等を含む会議の割合…90%以上</p>	<p>(1) 職員一人当たり約5時間縮減 ・ R1 17.26時間 R2 8.9時間 17.26-8.9=8.36時間減 長期臨時休校に伴い3か月ほど過重労働報告0時間の期間があった状況もある。</p> <p>・ R1 月100時間超 1人 80時間以上 1人 R2 月100時間超 2人 80時間以上 5人 ・ 月 45時間超 19人</p> <p>時間外労働については特定の職員に偏る傾向にあり、日頃の健康管理も含め1日当たり1時間の削減に取り組めるよう面談指導を行った。</p> <p>(2) ・休暇について 令和元年度 職員一人当たり約16.3日取得 令和2年度 職員一人当たり約17.7日取得 ・定時退校日・・・月1日または2日 ・退校できた職員の割合80%</p> <p>(3) 部活動休養日 休養日が設定できた部活動 100%</p> <p>(4) スマート会議年間15回設定 平均95%実施 97.5%実施できた。昨年度比較+2.3%up</p> <p>(6) 98.7%達成</p>	※ ※ ※

改善課題

- コンプライアンスを向上させるために学期ごとに小グループでの研修を行う。
- 機械警備になり、総勤務時間縮減への意識を高めさせ、今後の総勤務時間縮減に向けて意識改革をさせる。
- 桑工安心メールの内容等を見直し、生徒の登録数を増加させる。
- 定時退校日の設定を増やす。
- 教職員のICT研修を行う。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>社会がこれまでの安定期から変化の時代へ変わった。このことにより人材育成について</p> <p>①「自ら学ぶ努力」のできる人材を育成する。</p> <p>②IT社会の中「正しい情報を見極める力」と行動力をもった生徒の人材の育成。</p> <p>③少子高齢化の中で若い世代に「ものづくり」に対する興味関心のきっかけ作り。</p> <p>④コンプライアンス委員会を設置し職員全体で意識改革と醸成を図る。</p>
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>これからの工業教育のみならず、学校を取り巻く環境は大きく変化する時期を迎えつつある。ICT教育を中心に職員の意識改革を図るとともに、学習方法の新たな展開を見出す必要がある。これまでの伝統をいかしつつ、近代工業のリーダーシップの育成を目指す。</p>
---------------------	---